



手をつなご だより

発行人 特定非営利活動法人手をつなご理事長 千葉 勝恵

発行所 〒177-0045 東京都練馬区石神井台 5-9-6 手をつなごの家

お問合せは、Tel.03-6767-2577 Mail : tewotsunago@nethome.ne.jp

URL : <https://ciao-tewotsunago.ssl-lolipop.jp/>

Vol. 79

2022年3月号

(年2回発行)

アラン・ブース



理事長 千葉 勝恵

もう、あれから35年という月日が流れてしまった。私が保育園で働いていた頃に出会ったアラン・ブースと言うイギリス人の作家のことをふと思い出した。父親の彼がほとんど毎日のように娘の保育園の送り迎えをしていた。彼は上手な日本語で話しかけてくる。私も彼を



見かけると声をかけることにしていた。私は彼が作家であり、日本の紀行文(鹿児島から青森を歩いて縦断し、その紀行文を週刊文春に連載している文学者だということは、後に職員から聞かされた。時間があれば父母会にも参加する。夫婦で参加することもあった。

彼は日本大好き人間だった。高円寺の阿波踊りでは、イギリスB.B.Cの中継している姿を私は目撃もした。

彼は娘の“未来”をとても愛しており、何でも訪ねてきた。娘は利発で可愛い、少しわがままではあったが、保育士も友達もみんな日本人の子どもと何の隔たりもわだかまりもなく毎日元気に通園し、ほかの子と変わりなく遊び回り、時には叱られ、時には褒められ伸び伸びと育っていた。誰も外国人と特別扱いをすることなく、接していた。娘の良いところを誉めましたが、彼女のこれは許せないというところも伝えた。彼が自分の生き立ちを私に話すようになったのは何がきっかけだったのか覚えていない。大学で演劇を学び、狂言や能に興味を持ち、日本文学へのめりこんでいた彼は日本で暮らし、

自分の足で日本を縦断し彼のエネルギーは英文で日本を書き、それを柴田京子氏が翻訳していたようだ。そんなある日、彼はインドへ取材旅行に行った。帰ってから、体調が悪くなった。彼は食べたものが悪かったかもしれない、娘にうつらないかと、ひどく気にしていた。「病院に行った方が良い。」と勧めた。結果を聞くこともなかったが、その後、彼が入院したことを知った。私は退職し、シンガポールへ行くための下準備として日本語教師の学校へ通って居り、自由な時間を持てるようになっていた。母親から、『相談』を受けた。彼が自分の生き立ちを私に話したこともあり、入院後は「大丈夫、付き添えないとき、言ってくれば代わることもできるよ。なんかあれば連絡して」と奥さんに伝えてあった。彼女は外資系保険会社社長の重役をしていた。彼は私が病院に現れた時には「なぜ？」と言う表情を見せたが、体調の良いときは話もした。「自分は捨て子だった。」衝撃的な彼の話だった。男の子は将来働き手として大事に育ててもらえるだろうと、農家の家の前に捨てられた。その家には娘がいて、兄妹のように育ててもらった。」と育ての親への感謝、昔を懐かしんでいるように語った。その農家で、大事に育てられたに違いない。大きくなった彼は大学に行かせてもらい、演劇に興味を持ち、シェークスピアから日本の能・狂言に関心を持ったそうだ。来日の夢を叶えることができた、話したことがあった。一緒に育った農家の娘に会いたい！彼は当時を懐かしんでいる風だった。礼を言いたい！彼の今があるのは、その人のお陰なんだと話をしてくれた。たくさんの苦勞の陰に、きっとその方の力が大きかったのだろう。彼の妻は、マレーシア王家の出だとも語った。賢い素敵な女性だった。「共に育った農家の妹に会いたい」と彼は呟いた。彼の妻はその願い：一人のイギリス人を探し出し、日本に呼び、病床の彼に会わせた。1週間日本に滞在させ、イギリスに戻って行ったという。長年「ありがとう！」が言いたかった彼、数十年の思いを取り戻せたと話してくれた。彼の奥さんは、彼の長年の思いを果たして上げたのだ。それから間もなくして雪の降る2月のある朝、電

話が鳴った。奥さんからだった。「彼が終わった！」と、告げた。直ぐに病院の安置所に駆けつけると、背広姿の彼が眠っていた。まだ温かかった。奥さんに労いの言葉をかけ、葬儀の段取りについて尋ねると途方に暮れている状態だった。草津に碑を立ててくれるという話もあるが、葬儀については誰とも相談していないということで、急遽、私が葬儀社の手配をし、お通夜・葬式の手配をした。お通夜に集まった人たちと冥福を共に祈った。私がしてあげられるのはそこまでだった。大好きな日本で彼は眠っている筈。短い間の彼との付き合いだったが、日本大好きな彼の日本への思いをゆっくり、いま、読み始めている。そう、今頃、読み始めているのだ。【その彼の名はアラン・ブースと言う。】

著書：「日本縦断日記」「西郷隆盛の道」「津軽」「飛騨白川へ」「日本縦断歩き旅」

読む交流会企画 幼い頃の私〇〇でした

関子ども家庭支援センター（2022 年度より地域子ども家庭支援センター 関）

 高久 清夏

「走り出した途端、風がさあ〜と駆け抜けて行き・・・」。これは私が小学校 1 年生の時『初めて自転車に乗れた日』という作文の一文です。

実は私はその時自転車に乗れなかったのですが、それを先生に言えず想像で書き終えました。幼い頃の私は詩やポエムを書くのが好きで、作文を書くのは苦ではなかったのですが、さすがに嘘を書くのは苦しくてその日の夕食の時、私の様子がおかしいと感じた母に尋ねられ泣きながら白状しました。この事を母が先生に話してくれ、「凄いいい文だった！本当に乗れている感じがよく出ていたよ。」となんと逆に褒められ温かい気持ちになったのでし



た。（その後正直に乗れないことを作文にして出しました。）その後、父と練習をし無事乗れるようになり、今では友人から「アグレッシブな運転」と言われる程、運転技術も上がり、あの作文の様に今日も風を切って走っています！

貫井子ども家庭支援センター（2022 年度より地域子ども家庭支援センター 貫井）

 村嶋園子

幼い頃は、とにかくよく遊びました。近所のお兄さん・お姉さんから弟・妹まで、年齢の幅は 10 才程度あったかと思えます。


「どこ行き」や「ポコペン」等ゲーム遊びも「おマメ」という立場で一緒に遊ばせて貰っていました。そのうちルールを覚え「おマメ」卒業です。

毎日そうやって遊びながら、いつしか自分達が小さい子の面倒を見る立場に。皆で、時にはけんかしながらも楽しく遊んでいました。

小学生の時には下校途中で花の蜜を吸ったり、山吹でオバケの葉を作ったり、ペンペン草の葉で音を鳴らしたり…遊びのネタはあちらこちらにありました。（もしかしたらよその家のものだったかも。ごめんなさい）

当たり前だと思っていた事は「昭和の子」ができた昭和ならではの貴重な経験だったのかもしれない。

小規模保育園手をつなご石神井台

 大塚祐子

「幼い頃の私はずっと外で遊んでいました」

北海道で生まれ幼少期を過ごしました。昭和の時代でしたので家の近所にはドラえもんに出てくるような空き地があり、そこで夕ご飯の時間まで子供たちだけで遊んでいたものでした。当時の外遊びはとにかくそこにある木の枝、葉、石、砂、土、植物を駆使して遊んだものでした。今思えば私たち保育士が理想とする創造的な



遊びを子どもたちだけで展開していたのだなあと振り返っています。大きな葉はお皿になり、土や砂はご飯になったり。春に咲くタンポポの黄色の花は玉子焼きに。今のように公園に水道があるわけではありませんので雨上がりの水たまりは貴重なおままごとの素材となっていました。葉を水に浸して砂をまぶすと天ぷらです。泥水はカレーになり、ごつごつした石はお肉やお芋に見立てていました。おままごとセットなど買ってもらえなかったのですが、外でのおままごと遊びが大好きでした。一日中外での遊んでいる子どもでした。今でも子どもたちと外で砂遊びをするとワクワクしています。

あいあいあい東大泉



武永敦子

「末っ子」

私は四人姉妹の末っ子です。

よく若草物語でみたいでいいわね！と言われました。

しっかり者の長女とは九歳離れているので一緒に遊んだ記憶はあまりありませんが、二人で動物園に行ったことを今でも覚えています。

次女は元気で一番の暴れん坊でした。よくケンカをして泣かされていました。

三女とは一番仲良しで姉が幼稚園から帰ってくるのが楽しみでした。一緒におままごとをしたり、姉の友達の家について行ったり、色々なところについて行きました。今でも困った時には一番の相談相手です。



私は四番目だからだったのか親からも過剰な期待されることもなくのびのびと育ったと思います。若草物語のような素敵な四人姉妹ではなかったですが、姉たちがいていつも家は賑やかでした。今でも甘えられる姉がいて「末っ子で良かった!」って思っています。

今でも困った時には一番の相談相手です。

あいあいあい南大泉



長谷川かをり

幼い頃の事で思い出す日々の一つ、2~3歳のころ祖父が遊びに来ている時お庭で器用な祖父は、色々なものを作り、今でいうDIY的なことを沢山作っていました。ウッドデッキや棚など色々な物をつくり、他にも植物や

野菜など育て季節の花々が咲き誇り、野菜やくだものなど季節ごとに実り収穫。そんなお庭で祖父の作業している場所が好きで一緒にまねして作ったり、遊んだり三輪



車に乗って運んだり、季節のお花を摘んだり花の香りが大好きでいつも甘い匂いを香るのがとっても幸せな気分でした。遊んでいました。野菜もとうもろこしやさつま芋など幼い子が収穫で

きるものも沢山作ってくれて楽しませてもらいました。祖父は鳥も好きだったので大きな鳥小屋も作って色々な種類の鳥も飼っていたのでそうじの手伝いも遊び感覚で自然に囲まれた大好きな祖父とのひとときを過ごしていました。

あいあいあい石神井台



松井 良江

幼い頃の思い出…とにかく私はお留守番が嫌で仕方がなかった。二歳差の姉と兄がいて、それぞれ小学校に上がると専業主婦だった母がパートに出た。『えっ！なんで私はまだ小さいのにおうちに居てくれないの?』今でもその気持ちをよく覚えている。当時祖父母と敷地内同居をしていたので、よく祖父母の家でおやつを食べ、時代劇を一緒に見たり、一緒に犬の散歩に行ったりした。



少し経つとひとりで切符を買い池袋まで行きサンシャイン通りを歩き母の働く花屋にたまに迎えに行ったりした。途中で文房具屋に寄り道したり。今思えばかなり自立?!自由?!な子で、なかなかのドキドキ体験だ。

日が暮れると帰りに昭和感溢れる江古田銀座という商店街に寄り、夕飯の買い物をして帰った。いつも母と手をつないでくっつき、典型的な甘えん坊だった。お留守番が嫌で寂しい思いもしたが、今ホッコリした気持ちになれるのは、きっといつも誰かが側にいてくれたのだろう。お陰様でもうすぐ下の子も義務教育が終わり高校生に。親として、してあげられることが少しずつ減っていく寂しさもあるが、今は素直に成長が嬉しい。

事務局通信

2022 年度定期総会のご案内

下記のとおり開催予定です。

ご多忙の折恐縮ですが、ぜひご出席くださいますようお願い致します。今年の総会は新型コロナウイルス感染防止のため、懇親会は行いません。なお、会員の皆様には5月初旬に議案などお送りいたします。

記

日時 2022年5月29日(日) 10時~12時

場所 関町北地区区民館 2階 会議室3

主な議題 新役員の選出



2022 年度 会費納入のお願い

同封の振込用紙にて 2022 年度の会費の納入をお願いいたします。大変お手数ですが、4月末日までに下記の口座にお振込みください。

正会員 3,000 円/年

賛助会員 1口 3,000 円/年×1口以上

【郵便局から振り込む場合】

ゆうちょ銀行

口座番号 00180-1-168824

特定非営利活動法人をつなご

【その他の金融機関から振り込む場合】

ゆうちょ銀行(金融コード 900)

〇ー九(ゼロイチキュウ)支店

当座 0168824 トクヒ) テラツナゴ

会費・ご寄付についてのお問い合わせ

手をつなご事務局

☎03-6767-2577

✉tewotsunago@nethome.ne.jp

保育サポーター交流会のご報告

2021 年度の保育サポーター交流・研修会は 12 月 21 日(火)に開催いたしました。

今年度は、「手をつなごが目指す出張保育について」、ご要望が多かった「手遊び・わらべ歌」、前回好評だった「肩こり・腰痛に効果的な体操」を行いました。研修後はサポーターさん同士の繋がりが図れるよう、茶話会を企画しました。



あいあいあい3所の水回りが あたらしくなりました!

練馬区より新型コロナウイルス感染拡大予防事業補助金の交付により、あいあいあい3所の水回り(台所・洗面所・トイレ)を新しくすることが出来ました。コロナ対策という事もあり、設置したすべての設備がセンサーで稼働するものになっています。



あい石台台所・洗面台ノータッチ式センサー



あい3所自動開閉式トイレ・あい東ユニットバスノータッチ式センサー